



# もんぜんろくちょう

タイトルの3つの色は、鬼すべの際の誓固・鬼係・燻手の法被の色をイメージしたものです。

## 協議会の目的と活動

太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会は、太宰府天満宮門前六町（三条・連歌屋・馬場・大町・新町・五条）の代表の方々12名と太宰府天満宮、太宰府市が構成員となって組織されています。また、参道部会・幸ノ元溝尻水路部会が設置されており、門前六町の自治会から推薦で代表者が選出されています。本協議会は、太宰府天満宮門前の歴史的風致の維持向上を目的とした歴史的市街地づくりを行うことで、地域の活性化などを促し生活環境の向上を図るための協議会です。そのために門前六町の方々からの意見を集約し、門前のまちづくりの方針を検討し、行政と協働で住み良い環境、憩えるまちを創り出していきます。

## 活動内容

### ■総会・合同会議の開催

期 日 平成 26 年 5 月 23 日（金）

会 場 太宰府館

- 議 題 1) 平成 25 年度の事業報告と決算報告  
2) 役員の変更  
3) 平成 26 年度の事業計画案と予算案  
4) その他

1) 平成 25 年度の主な事業は、①総会②先進地視察研修③各部会開催④広報誌の刊行の事業を報告し、決算報告とともに承認されました。

2) 協議会役員（会長・副会長・監事）の任期は、2 年となっており、26 年度は改選年度であり会長（木村敏美氏）、副会長（中村 惇氏）、監事（日高 一氏）の 3 氏が再選されました。

3) 平成 26 年度の事業計画は、①総会②先進地視察研修③各部会の開催④協議会運営支援業務委託などの事業案と予算案を提案し、承認されました。



【平成 26 年度第 1 回総会の様子】

### ●合同会議

協議会総会後、参道部会・幸ノ元溝尻水路部会の会員と合同で年間の事業日程や部会の取組みについて協議を実施しました。

### ■先進地視察研修

期 日 平成 26 年 10 月 31 日（金）

目的地 福岡県八女市（福島地区、黒木町地区）

内 容 伝統的建造物群と地元協議会との交流

今年度は、先進地視察研修として八女市の黒木町地区と福島地区を訪問し、地元のまちづくり協議会との意見交換を行い、現地の視察を行いました。

八女市は、全国でも有名な茶処であり、そのほかに伝統工芸品として提灯・石灯籠・仏壇・和紙などが著名です。

黒木町地区は、八女市の東部、山間部に位置する旧八女郡黒木町で、2010 年に八女市に編入合併した地域です。矢部川と笠原川が合流する西に形成された所で、東の山上には中世猫尾城跡があり、豊臣秀吉が九州を平定するまでは、黒木氏の居城であり、ふもとの地域はその城下町でした。



【黒木町での意見交換会】



【八女市福島の伝統的建造物の活用】

福島地区は、八女市の中央に位置しており、戦国時代は、蒲池氏の領地でありました。豊臣秀吉の九州平定により筑紫広門が領主として移封され、福島の中心部に城郭を築きまし

た。関ヶ原の戦い以後、功により田中吉政が平城として改築しましたが、田中氏の断絶により廃城となりました。しかし城下町の町割りは残り、久留米藩最大の在郷の商家町として発展し、江戸時代から近代にかけての伝統的建造物が多く残されています。

八女市にはまちづくり団体が数多く組織され、NPO 法人として活動される団体もあります。今回は、住民で組織された「八女福島町並み保存会」（代表 大坪次太氏）から活動内容の報告があり、太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会としては興味深い内容でした。

「保存会」の活動は、福島地区において「景観の保全」「住環境の向上」を目的とした「伝統的町並み景観整備に関するまちづくり協定」を住民と締結され、この協定を活かした住民主体の町並み保存・継承を目的にまちづくりを具体的に進めるため、各町内会の代表者による「協定運営委員会」が発



【八女市福島での意見交換会】



【八女市福島の街並み】

足されました。「町家等建築物の修理・修景相談」「町並みを活かしたまちづくりの住民啓発」「空き家（店舗）再生活活用事業」などの活動を行政と連携を取りながら、また様々なまちづくり団体と協働により活動も継続的に行っておられます。

協議後「八女福島町並みガイドの会」(代表馬場早智子氏)より、町並みの案内をいただきました。

## ■部会の開催

### ●参道部会

- 1) 第1回 平成26年9月2日(火)
- 2) 第2回 平成26年10月3日(金)
- 3) 第3回 平成26年12月5日(金)

参道部会では、街並み修景助成に向けた修景基準の検討を実施してきました。修景基準は、「出庇」「壁面」「屋根形態」「高さ」についての基準を示す方向で、細部については建物に個性があり、細部にわたる基準について必要性は低いのではないかと意見も出ています。「出庇」は、参詣者の利便性から考えても必要不可欠なものと思われます。2階の壁面線及び出庇の高さ、幅、長さを統一し、連続性を保つことで良好な景観を醸し出すことができます。近年2,3軒の店舗の新築があり、「出庇」が付かない店舗が出現しています。これは、公道である道路の占用と関わってくることから、『建築基準法』の第44条の「道路内の建築制限」に抵触するため、新築については「出庇」付きの建物は、建築許可がなされません。この「出庇」について考えるため、今後は、法的な問題、許可基準の方向について関係機関と協議を進め、「出庇」を設けることへの方法を検討し、部会にて議論を深めていきます。

### ●幸ノ元溝尻水路部会

- 1) 第1回 平成26年7月31日(木)
- 2) 地元説明会 平成26年8月22日(金)

部会は、小鳥居小路の魅力づくりについて話し合いました。具体的には、小鳥居小路にある平安時代からの水路の



【参道部会】

整備や小路自体の道路の美装化について、地元の方々への周知と整備内容についての意見の聴取の方法、さらには意見を聴取する地域の範囲について協議を行いました。加えてその説明会の開催日程、進行について協議を行いました。



【小鳥居小路部会での地元説明会】

地元説明会は、部会で周知する範囲に意見の違いがありましたが、まずは利害が直接影響を及ぼすと思われる小鳥居小路沿いの地権者並びに事業者を対象に案内状を配布しました。説明会は『小鳥居小路の魅力づくり』と題して、「人づくり（住民による魅力づくり）、施設づくり（水路・道路整備、伝統的建造物の修理）」を目指して魅力あるまちづくりを提案しています。参加のみなさんとの質疑応答を踏まえた結果、早期に住民ワークショップを開催し、水路の利活用をはじめとする活性化の方法について、住民・事業者そして市役所相互のできることを持ち寄るまちづくりを目指すこととなりました。

#### ワークショップ（WS）の開催

- 1) 第1回 平成26年9月19日（金）
- 2) 第2回 平成26年10月16日（木）
- 3) 第3回 平成27年1月28日（水）

#### 第1回 「小鳥居小路の魅力探し」と題して魅力あるとこ



【小鳥居小路の魅力づくりワークショップの様子】



【小鳥居小路の魅力づくりワークショップの様子】

ろと魅力がないところの抽出を行いました。魅力的なところとして、「小鳥居小路の名前」「歴史的な古民家の存在」「歴史的な伝統行事の催行」「歴史的水路の存在」「天満宮・国博等へ回遊性が拡大」などにまとめられます。一方、魅力がない部分としては「景観が雑然としている」「車両の通行が多い」「歴史を記した解説板がない」「回遊する人びとが少ない」「傷んだ道路」などが揚げられました。

第2回 第1回の意見のなかから、『道路整備』と『水路整備』について意見を求めました。『道路整備』については、「歩行者に優しい通り」「舗装の色と素材」「案内板の設置」「交通対策の必要性」「無電柱化」等に関する意見がありました。また『水路整備』については、「水路の開渠化(可能な限り)」「安全対策」「流水の確保(自然取水)」の意見が出されています。

第3回 前回の意見の提示に基づきイメージを提案しました。道路の意匠については、「国博通りとの連続性を重視し同様な舗装」「人の安全性を確保する整備（舗装による歩車道の色分け）」「進入車両の制限」等の意見が再度提案されました。水路については、基本的には古い石垣をみせる方針ですが、近接する建物の基礎や、建物入口など場所によっては壁面に石積み模様の化粧板の貼り付けで対応する方策を、さらに、転落防止策として水路沿いに水路明示の柱を設置する方法等を参集された皆さんに提案しています。参集された皆さんからは、安全性の問題として、水路の深さの軽減、水に親しむ環境の向上について提案がなされています。今後の問題として進入車両の件については、警察署と協議を行うことでワークショップを終えました。

説明会 これまでのワークショップの成果を取りまとめ、小鳥居小路整備計画について次年度早々に説明会を開催する予定です。

## 関連事業

歴史的風致維持向上計画に伴う関連の事業として西鉄太宰府駅前広場の整備、雀田道路整備が実施されています。

### ■西鉄太宰府駅前広場整備事業

平成元年に整備された西鉄太宰府駅前広場は、太宰府にお越しになられた方々への玄関口として整備されました。整備から25年が経過し、コミュニティバスや博多駅からの直通バスの運行など、大型バスの乗り入れが急増し、広場の損傷が目立ってきたこと、併せて、一般車両の乗り入れも増え、来訪者の方々、大型バス、一般車両、タクシーの安全確保が課題として浮上しました。また、「太宰府天満宮のあるまち」「史跡のあるまち」として再整備にあたっては、駅前広場は江戸時代以来の宰府宿であり、整備する時代コンセプトとして江戸時代を表現し、参道沿いの歴史的建造物が見え、かつ参道からは修景された駅舎が見えるような整備を心掛けています。その結果、時代性や場所性などが異なる文化遺産である万葉歌碑、仙厓和尚、夏目漱石の句などが記された大型燈籠を撤去しています。

【整備後の太宰府駅前広場】



【整備後に行われた鬼すべの様子】

### ■溝尻雀田道路整備事業

さいふまいの道として、太宰府の南から入る雀田道路について、歴史的雰囲気を感じられるような道路の整備を行っています。道路に沿ってある藍染川に石蓋風デザインを用いて蓋をかぶせ歩道化し、車道部分も通常とは異なる舗装で仕上げられています。石蓋風デザインは、小鳥居小路にある花崗岩による蓋をイメージし



【整備後の溝尻雀田道路】

ています。

道を歩く子供たちや高齢者の方々から、感謝の言葉が寄せられており、馬場自治会の皆さまの長年の願いを実現できたことは、良かったと思います。



【整備後の溝尻雀田道路】

### ■歴史的風致形成建造物保存修理事業

(定遠館・定遠館土塀修理)

太宰府天満宮参道から南側、光明寺まで至る道沿い、浮殿に隣接して定遠館と定遠館土塀が建っています。この建物は、明治時代中頃の建物で、参道から光明寺までの歴史的景観を形づくり、今回、所有者である太宰府天満宮が保存修理を行いました。この修理には、国・市からの補助金も充てられ、通りの歴史的景観形成のみならず、建物としての姿も取り戻しています。景観重要建造物にも指定されています。



【修理された定遠館と土塀】



### ■太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会

【協議会】

(三条)有岡昌生 永利久嗣 (連歌屋)中村惇 中村和幸  
(馬場)市川英二 有吉耕造 (大町)日高一 山田豊衛  
(新町)木村敏美 入江政幸 (五条)井上禮一 大藪善治

【参道部会】

三宅明治 小野隆弘 高田由美子

【幸ノ元溝尻水路部会】

有岡善雄 中村和幸 古川章 山康夫 山口捷海

※太宰府天満宮、太宰府市も、協議会の構成員として参画しています。

## もんぜんろくちょう 第3号

編集・発行 太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会

【事務局 太宰府市建設経済部 都市計画課

景観・歴史のまち推進係】

発行日 平成27年3月31日